

田無神社 龍神池 調査・管理報告書

活動日	2020年11月20日	天候	晴れ	活動時間	9:30~11:30
作業者	舟木 匡志			報告者	舟木 匡志
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
<p>【作業内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・龍神池の写真撮影・生物調査・外来種の駆除・落葉の除去・サカマキガイ50個体を除去(流れ出し部分の岩面に多く確認された) <p>【生物調査の詳細】</p> <ul style="list-style-type: none">・ビオトープ創出時に導入した生物も含め、生息・生育状況の調査を実施した。・複数のミナミメダカ成魚を複数個体確認した。・クロスジギンヤンマの幼虫を1個体確認した。本種は小型の昆虫や魚類を捕食する肉食性のため、今後も継続的に幼虫の増加に伴うミナミメダカの個体数減少に注視していく必要がある。・オオシオカラトンボ、またはシオカラトンボ(幼虫)を確認した。今年度もビオトープ内で繁殖していることがわかった。・ヒルムシロ属の一種は一部分残っていたが、多くが水温の低下により姿を消していた。・コムラサキ、ヤブラン、ミゾソバの実を確認した。・ツワブキが開花していた。・ミゾソバにホソヒラタアブが訪花していた。 <p>【ビオトープの管理作業】</p> <ul style="list-style-type: none">・植栽されたコムラサキの枝を剪定した。・枯れたツワブキの葉を除去した。・水面を覆っていたケヤキやイチョウの落ち葉を除去した。・外来植物(アメリカタカサブロウ)を除去・増殖していたサカマキガイ50個体を駆除した。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・サカマキガイが増殖しているため、調査時に継続駆除することが望ましい。					



No. 1

撮影日: 2020年11月23日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子



No. 2

撮影日: 2020年11月23日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査中の様子。



No. 3

撮影日: 2020年11月23日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。

	<p>No. 4</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 <ul style="list-style-type: none"> ・落葉をかき分けると多くのミナミメダカが確認できた。 </p>
	<p>No. 5</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 <ul style="list-style-type: none"> ・植栽されたツブキが見ごろを迎えていた。 </p>
	<p>No. 6</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 <ul style="list-style-type: none"> ・池底に堆積した落葉でクロスジギンヤンマ(幼虫)を確認した。 </p>

	<p>No. <u>7</u></p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・池内でヒメタニシを確認した。</p>
	<p>No. <u>8</u></p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・シオカラトンボ、またはオオシオカラトンボ(幼虫)を確認した。若齢幼虫のため、種を特定できなかった。</p>
	<p>No. <u>9</u></p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・流れ出し部分の岩面で外来種サカマキガイを多数確認した。50個体を駆除した。</p>

	<p>No. 10</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・植栽されたヤブランの実が熟していた。</p>
	<p>No. 11</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・植栽されたマユミの実が割れて、中の種子が見えていた。</p>
	<p>No. 12</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・植栽されているコムラサキの実が紫色に色づいていた。</p>

	<p>No. 13</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体色が白っぽい個体を確認した(1個体)。放流された可能性もあるため、その個体は取り除いた。
	<p>No. 14</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツワブキの花にホソヒラタアブが訪花していた。
	<p>No. 15</p> <p>撮影日: 2020年11月23日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカタカサブロウ(外来種)が生育していたため、引き抜いた。

田無神社 龍神池 確認生物リスト

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注			
				環境省	東京都 北多摩			2019年度	2020/ 5/31	2020/ 8/5	2020/ 11/20
両生類	トウキョウダルマガエル	SR	導入	NT	EN		ミゾソバの密集する付近で成体を確認	○	○	○	
	ヤマアカガエル	SR	放流		EN		池内で多数の幼生を確認。上陸した個体も5個体確認		○		
	ニホンアマガエル	SR	導入		VU			○			
魚類	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN		稚魚を多数確認	○	○	○	○
貝類	ヒメタニシ	A	導入					○	○	○	○
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○			
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○	繁殖を確認	○	○	○	○
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				幼虫・成虫を確認	○	○	○	○
	ヒメアメンボ	A	自然飛来						○		
	ホルバートケシカタビロアメンボ	A	自然飛来				幼虫・成虫を多数確認		○	○	
	シロジュウシホシテントウ	B	自然飛来						○		
	ナミテントウ	B	自然飛来						○		
	マメコガネ	B	自然飛来						○		
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○	○	○	
	クロスジギンヤンマ	A	自然飛来				ヤゴを確認	○	○	○	○
	ハグロトンボ	A	非意図的導入					○			
	クロイトトンボ	A	自然飛来					○	○	○	
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来				ヤゴを確認	○		○	○
	シオカラトンボ	A	自然飛来				ヤゴを確認		○	○	○
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○	○	○
	コカゲロウ属の1種	B	自然飛来						○	○	
	ユスリカ科の1種	B	自然飛来						○		
	ヒトスジシマカ	B	自然飛来					○	○	○	
その他動物	ウマビル	B	非意図的導入						○		
植物	タマガヤツリ	A	導入					○			
	セキショウ	A	導入					○	○	○	
	コナギ	A	導入					○			
	ヒルムシロ属の一種	SR or R	導入					○	○	○	○
	ウキヤガラ	R	導入		NT			○	○	○	
	ミゾソバ	A	導入					○	○	○	○
	アゼナ	A	土壌由来					○			
	ウキクサ	B	土壌由来					○	○	○	
	シャジクモ	SR	発芽	VU				○	○	○	
	ヘビイチゴ	B	土壌由来						○		
	アメリカタカサブロウ	外	土壌由来			○		○		○	○
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○	重点対策外来種	○			

※確認記録 ※確認記録
 ○:調査で# ○:調査で確認
 △:聞き取り △:聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	アオゲラ、ウグイス、クロカナブン
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ、アズマヒキガエル
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンブバッタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリ名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
.	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの